

小中学校適正規模・適正配置検討の経過と 今後の方針について

教育総務課学校適正規模・適正配置推進室

目次

1. 素案に対する意見

- (1) 学校運営協議会委員との懇談会での意見等(抜粋)
- (2) 懇談会結果の整理
- (3) 地域説明会での意見等(抜粋)
- (4) 説明会結果の整理
- (5) 保護者アンケート結果の整理

2. 検討を要する論点

- (1) 具体的な統廃合パターン検討に向けた論点
- (2) 具体的な統廃合パターン決定後の論点
- (3) 引き続き研究を進めていくもの

3. 統廃合後の校舎等の利活用

4. 検討の経過と今後の方針について

- (1) これまでの経過
- (2) 課題
- (3) 今後の方針

1 素案に対する意見

(1)学校運営協議会委員との懇談会での会場意見等(要約・抜粋)

意見分類	意見の要旨
教育環境の充実と 学校規模の在り方	✓ 既に小規模であることでこどもの選択肢が制限されており、全体計画を待たず早期に統廃合をして欲しい。 ✓ 必ずしも適正規模が良いわけではなく、規模が大きくなると環境悪化のリスクもあるのではないかな。 ✓ 義務教育学校には良い点もあると思うが、一部地域のみ導入の是非や転出入時の対応も検討が必要ではないかな。 ✓ こどもや保護者などのニーズに合った学校を選べるよう、学校を選択できるような柔軟なルールとして欲しい。
地域コミュニティの維持と 伝統文化の継承	✓ 地域から学校が無くなると、若い世代の流出や過疎化を決定づける。都市計画や立地適正化計画と連動すべき。 ✓ 学校の統廃合により地域の祭りなどの伝統行事が失われてしまうのではないかな。 ✓ 長年1学校区1公民館として、地域と学校が結びついてきたが、学校区が変わる事で地域・公民館活動が混乱するのではないかな。
通学環境や方法	✓ 高低差のある地区での長距離通学はこどもにとって負担となるが、基準に定める時間で本当に通学が可能かな。 ✓ 統廃合によりバス通学が大きく増加した場合、併せてバス運行費用も増加する。財政的に持続可能かな。 ✓ 全国的にバスの運転手不足が深刻な問題となっている中で、通学バス運行を受託する事業者は運転手確保が可能かな。
学校の配置、施設整備及び 災害時のリスク対応	✓ 学校は指定避難所であるが、廃校後には地域住民の避難場所が無くなってしまうのか。 ✓ 改修するとはいえ、既存校舎の継続使用には後ろ向きな印象がある。魅力的な新校舎を建設し、アピールすることが必要である。
廃校後施設の利活用	✓ 廃校後の施設が放置されると治安上の問題もある。解体も含め、早期に活用の検討を進めて欲しい。 ✓ 体育館や校庭については、地域クラブなどの運動拠点として有効活用して欲しい。 ✓ 学区が広がると放課後児童クラブの確保や送迎に不安がある。廃校を利用できないかな。
合意形成のプロセスや各種 ルール	✓ 過去に実施した際には情報の周知等に問題があった。広く情報発信を行い、当事者や住民に寄り添った進め方をして欲しい。 ✓ 現在の小中学校の保護者はもちろん、これから結婚・出産する若い世代や保育所・幼稚園の保護者に情報発信をして欲しい。

(2)懇談会結果の整理

区分	回答数	割合
1 市内全ての小中学校を対象として検討し、進める必要がある。	110	80.3%
2 小規模校である学校や将来的に小規模校になる学校のみを対象に検討し、進める必要がある。	15	10.9%
3 「学校の適正規模・適正配置」は必要ない(現状のままで良い)	0	0.0%
4 わからない	5	3.6%
5 その他	5	3.6%
無回答	2	1.5%
計	137	100.0%

区分	回答数	割合
1 【モデル1】南北3分割モデル	41	31.5%
2 【モデル2】河川区切りモデル	59	45.4%
3 どちらでもない	16	12.3%
無回答	14	10.8%
計	130	100.0%

【適正規模・適正配置の推進について】

- 「市内全ての小中学校を対象として検討し、進める必要がある」が8割を超えており、全市的な推進の必要性を感じている人が多い。
- 推進の必要が無いという回答は0であり、明確に適正規模・適正配置推進の必要性を感じていないとする人はいなかった。

【素案で示したモデルについて】

- 河川区切りモデルが45.4%と最も多く、次いで南北3分割モデルの31.5%となった。適正規模の維持や市の一体感を重視する意見がありつつも、地域の伝統・文化の維持や歴史的経過への配慮、災害への対応などを含め、河川区切りモデルの納得感が高くなっていると考えられる
- 一方、「どちらでもない」との回答も一定数見られ、「旧市町村へ小学校を残す必要性」「小規模校の優位性」等を指摘する意見等があった。また、2つのモデルを組み合わせることや、素案に無い学校配置の提案、市民意見の取り入れ等、様々な意見が寄せられた。
- モデルに対する考え方については、実施した学校区によって差があり、学校ごとに受け止め方が異なっている。

(3)地域説明会での会場意見等(要約・抜粋)

意見分類	意見の要旨
教育環境の充実と 学校規模の在り方	✓ 「適正規模」という表現は小規模校が「不適正」と印象づけてしまうのではないか。 ✓ 重要視すべき点は子どもたちの学校の人数。単に学校の存在や通いやすさでなく、集団生活で社会のルールに馴染み、競争環境で能力を引き出す必要がある。部活動選択肢が制限されるのはかわいそう。 ✓ 全てを適正規模にせず、小規模校を残したり、子どもが規模を選べるような仕組みを検討すべき。
地域コミュニティの維持と 伝統文化の継承	✓ 伊香保地区では祭りが重要で、地域行事関係者が授業で伝統を子どもに伝えている。統合で伊香保の子どもが減ると、祭りなどの伝統が失われ、地域活性化に繋がらない。 ✓ 学校の適正規模・適正配置を考える前に、それを検討しなければならない要因である「人口減少」や「少子化」について考える必要があるのではないか
通学環境や方法	✓ 朝の登校時だけでなく、乗り遅れた場合の複数便確保など、「賢沢なバス配置」で市民満足度を向上させるべき ✓ 統廃合によってバスが増えることで、野生動物の危険から身を守るメリットを強調してはどうか。 ✓ 全国的な運転手不足の中で、統廃合が進んだ際の運転手は確保できるのか。
学校の配置、施設整備及び 災害時のリスク対応	✓ 学校配置の場所について既存施設ありきではなく、未来の子どもたちにとってどういう環境を作るべきか発想が必要。 ✓ 改修ではなく、新しい校舎を建てるとなれば統廃合も仕方ないと思える。新築校舎を作るという方向も検討してほしい。
廃校後施設の利活用	✓ 市街地の廃校舎は渋川市の再生計画に使える土地になる可能性を秘めている。マイナスマイナスで考えるのではなく、良い環境での教育作りと渋川市の再生を総合的に考えるべき。
合意形成のプロセスや各種 ルール	✓ グループワークで見えない意見が吸い上がってくる可能性が大きい。どんな形でも良いので、意見交換ができれば効果が出ると思う。 ✓ 説明会は対象となる人が行きやすいところで行われるべき。地元住民が参加できるような方法がまだあるのではないか。 ✓ 現在の子どもたちが大人になって自分の子どもがどのような学校配置を受けるか考える機会を設けてあげて欲しい。 ✓ 進め方が早すぎるように感じる。やっと市民が関心を持ち始めたという感じがしているところだが、進め方が早すぎると、色々なことが未消化のままになってしまう。多くの市民が意見交換して理解を深めた上で進める事が大事だと思う。

(4)説明会結果の整理

区分	回答数	割合
1 市内全ての小中学校を対象として検討し、進める必要がある。	91	59.1%
2 小規模校である学校や将来的に小規模校になる学校のみを対象に検討し、進める必要がある。	23	14.9%
3 「学校の適正規模・適正配置」は必要ない(現状のままで良い)	15	9.7%
4 わからない	7	4.5%
5 その他	15	9.7%
無回答	3	1.9%
計	154	100.0%
区分	回答数	割合
1 【モデル1】南北3分割モデル	23	17.8%
2 【モデル2】河川区切りモデル	29	22.5%
3 どちらでもない	58	45.0%
無回答	19	14.7%
計	129	100.0%

【適正規模・適正配置の推進について】

- 「市内全ての小中学校を対象として検討し、進める必要がある」が6割程度となっており、全市的な推進の必要性を感じている人が多いが、懇談会と比べ、小規模校のみの推進を求める意見が多い。
- 懇談会と異なり、推進の必要が無いという回答は9.7%と、適正規模・適正配置推進の必要性を感じていない人が一定数見られた。また、「わからない」「その他」及び無回答は16.2%で、懇談会での回答よりも多くなっている。

【素案で示したモデルについて】

- どちらでもないが45.0%と最も多く、次いで河川区切りが22.5%、南北3分割が17.8%となっている。
- 「どちらでもない」の内容については「地域からの学校喪失に対する懸念」「歴史的配慮の尊重」「旧市町村での小学校の存続」「小規模校の尊重」等があり、全体的には旧市町村を「地域」と捉え、地域を守っていくという意向が強いと考えられる。
- モデルに対する考え方については回答者の居住地区によって差があるが、総じて「どちらでもない」が多くなっている。

(5)保護者アンケート結果の整理(小学校)

区分	回答数	割合
1 市内全ての小中学校を対象として検討し、進める必要がある。	230	37.0%
2 小規模校である学校や将来的に小規模校になる学校のみを対象に検討し、進める必要がある。	255	41.1%
3 「学校の適正規模・適正配置」は必要ない(現状のままで良い)	40	6.4%
4 わからない	89	14.3%
5 その他	7	1.1%
無回答	0	0.0%
計	621	100.0%

区分	回答数	割合
1 【モデル1】南北3分割モデル	194	39.4%
2 【モデル2】河川区切りモデル	217	44.1%
3 どちらでもない	57	11.6%
無回答	24	4.9%
計	492	100.0%

【適正規模・適正配置の推進について】

- 「小規模校である学校や将来的に小規模校になる学校のみを対象に検討し、進める必要がある。」が41.1%となっており、懇談会・説明会と比べ、全市的な推進よりも小規模校のみの推進を求める意見が多くなっている。ただし、回答者の属する学校によって差があり、学校ごとに保護者の意向が異なっている。
- 「わからない」が14.3%となっており、懇談会・説明会と比べ明確に多くなっている。また、推進の必要はないとの回答は6.4%と、懇談会よりも多いが説明会よりも少なくなっている。

【素案で示したモデルについて】

- 河川区切りが44.1%と最も多く、次いで南北3分割が39.4%となっており、若干河川区切りが多い。この2回答と比べ、「どちらでもない」は11.6%と少数となる。
- 「どちらでもない」の理由については「大規模校となることに対する疑問」「通学に関する不安」があることや、学校の在り方自体を再検討する必要性の提案などがあつた。
- モデルに対する考え方については回答者の属する学校によって差があり、学校ごとに保護者の意向が異なっている。

(5)保護者アンケート結果の整理(中学校)

区分	回答数	割合
1 市内全ての小中学校を対象として検討し、進める必要がある。	117	38.1%
2 小規模校である学校や将来的に小規模校になる学校のみを対象に検討し、進める必要がある。	128	41.7%
3 「学校の適正規模・適正配置」は必要ない(現状のままで良い)	14	4.6%
4 わからない	48	15.6%
5 その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	307	100.0%

区分	回答数	割合
1 【モデル1】南北3分割モデル	86	35.1%
2 【モデル2】河川区切りモデル	116	47.3%
3 どちらでもない	35	14.3%
無回答	8	3.3%
計	245	100.0%

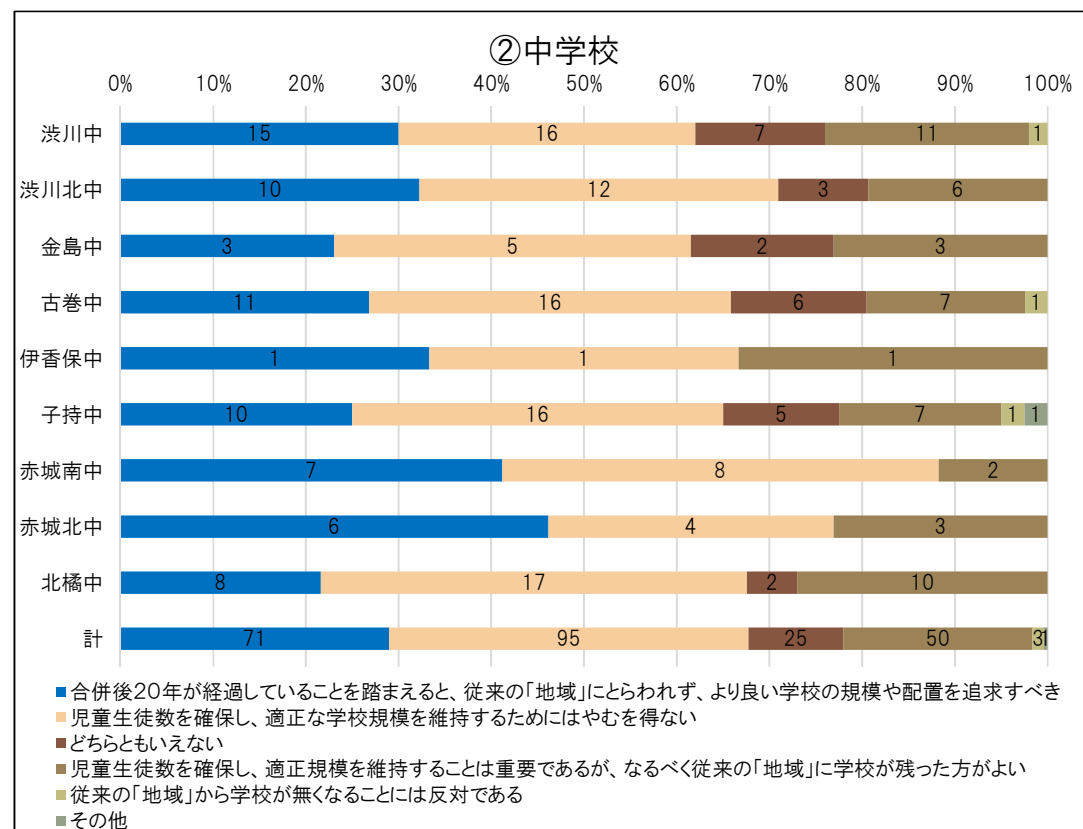
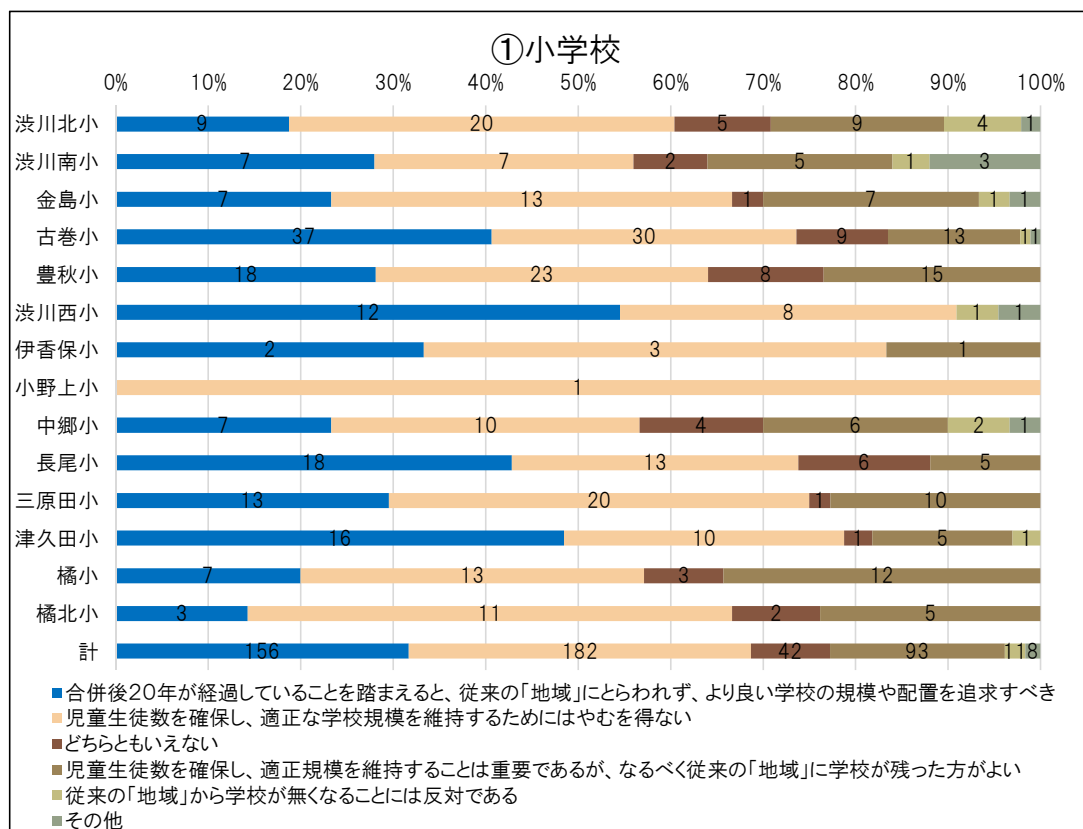
【適正規模・適正配置の推進について】

- 「小規模校である学校や将来的に小規模校になる学校のみを対象に検討し、進める必要がある。」が41.7%となっており、懇談会・説明会と比べ、全市的な推進よりも小規模校のみの推進を求める意見が多くなっている。ただし、回答者の属する学校によって差があり、学校ごとに保護者の意向が異なっている。
- 「わからない」が15.6%となっており、懇談会・説明会と比べ明確に多くなっている。また、推進の必要はないとの回答は4.6%と、懇談会よりも多いが説明会よりも少なくなっている。

【素案で示したモデルについて】

- 河川区切りが47.3%と最も多く、次いで南北3分割が35.1%となっており、若干河川区切りが多い。この2回答と比べ、「どちらでもない」は14.3%と少数となる。
- 「どちらでもない」の理由については、小学校と同様に「通学に関する不安」があった。また、数合わせの統合に対する疑義や、現学区の維持、もっと学校数を絞る等の提案などがあった。
- モデルに対する考え方については回答者の属する学校によって差があり、学校ごとに保護者の意向が異なっている。

(5)保護者アンケート結果の整理(地域をまたいだ適正規模・適正配置について)



2 検討を要する論点

(1) 具体的な統廃合パターン検討に向けた論点

- ① 新たな学校配置
 - 小学校の配置として、既存の小学校だけでなく、既存の中学校の場所も含め検討する。
- ② 分散進学回避
 - 小学校で構築したこどもの友人関係等が維持できるよう、中学校進学時に別々の学校へ分かれて進学する「分散進学」が極力避けられるような中学校の統廃合を検討する。
- ③ 「こども」と「地域」のバランス
 - こどもの教育や諸活動の機会を確保する適正規模を実現して欲しいという要望と、地域になるべく学校を残して欲しいという要望を踏まえ、バランスの取れたエリアの設定や統廃合のパターンを検討する。
- ④ 早期の統合に関する要望への対応
 - 懇談会・説明会・保護者アンケート等で寄せられた早期統合の要望を踏まえ、計画の策定と並行する形で統廃合を進める学校を検討する。
- ⑤ 多様な学びに対する選択肢の確保
 - こどもの個性や特性に合った学校の選択肢として、適正規模校とは異なる特徴を持った教育関係施設の設置を検討する。

(2) 具体的な統廃合パターン決定後の論点

- ① 学校選択制導入について
 - 何を基準に選択可能にするか？どの範囲までを選択可能にするか？
- ② 通学方法について
 - バス等を利用できる基準は？種類(路線バス、通学バス等)は？
- ③ 放課後の居場所(放課後児童クラブ等)について
 - 新設するのか？元の場所を使用するか？新校舎と併せて整備するか？

(3) 引き続き研究を進めていくもの

- ① 義務教育学校の設置について
 - 小中一貫教育を行うのか？行う場合は一部学校のみか、あるいは全校とするか？

3 統廃合後の校舎等の利活用

① 廃校後から利活用等の方法決定までの間

- 当面の間は以下の状態を維持しながら、順次利活用の検討を行う。
 - ア) 廃校後、直ちに解体は行わない。
 - イ) 解体されるまでの間は、指定避難所として維持する。
 - ウ) 屋内運動場及び校庭等は、社会体育施設として引き続き活用していく。

② 利活用検討の時期

- 校舎利活用の検討は、対象校ごとの統廃合に対する合意が形成され次第、順次進めていく予定です。このため、実際の統廃合時期よりも先行して検討を開始することも可能であると考えます。

③ 利活用検討の方向性

- 教育拠点などの行政目的での利用・民間活力の導入・譲渡など、様々な方法が考えられることから、各学校ごとの立地や施設の状態などの諸条件を踏まえ、個別に検討を行うこととします。

4 検討の経過と今後の方針について

(1)これまでの経過

日時	内容	回数
R8.3	基本方針策定・公表	-
R8.6.17	議員全員協議会(策定方針報告)	1回
R8.5.7～6.24	学校運営協議会での説明	11回
R8.6.19～7.3	地域説明会(第1回)	6回
R8.7.17	議員全員協議会(素案報告)	1回
R8.7.23～8.19	学校運営協議会委員との懇談会(第1回)	10回
R8.8.1	しぶかわキッズオピニオン	1回
R8.8.26～9.20	地域説明会(第2回)	7回
R8.9.9～9.30	保護者アンケート	1回
R8.9.24～10.21	学校運営協議会委員との懇談会(第2回)	10回
R8.10.22	議員全員協議会(経過等報告)	1回
その他	市民意識調査、市政モニター、出前講座、各種広報 等	-

(2)課題

- ✓全体として適正規模・適正配置を推進する必要性を感じている方が多いものの、その手法については賛否両論であり、案を絞り込むには議論の量が不足している。
- ✓必要性や具体的な手法(統廃合)に対し「わからない」というご意見も多く、適正規模・適正配置の是非を検討するにあたっての十分な理解が不足している。
- ✓検討を進めるに当たり、今後保護者になる可能性がある若い世代を含めた、幅広い世代の方への情報提供など、想定していた範囲を超えたアプローチが求められている。

これまで実施してきた説明会や懇談会等でいただいたご意見を考慮すると、エリア設定や統廃合のパターン設定を具体的に進めていくには、より多くの関係者に適正規模・適正配置に関する理解を深めてもらい、引き続き議論が必要であると考えられます。

このため、令和8年度末(令和9年3月)に基本計画の策定を予定していた当初の策定スケジュールを変更し、策定期限を延期します。

(3) 今後の方針

① 計画策定期間

- 令和8年度末(令和9年3月)策定予定 ⇒ 令和9年度の可能な限り早い時期に策定(時期調整中)

② 検討の詳細公表について

- 「**「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画策定方針(以下「策定方針」という。)**」中の策定スケジュール等を修正し、市議会議員全員協議会へ策定方針の修正案を報告します。

③ 情報提供及び意見聴取充実

- 適正規模・適正配置の必要性や小規模校のメリット・デメリットなど、議論に必要な土台としての情報周知を再度幅広く実施しながら、様々な方から引き続き意見を伺っていきます。

④ 早期統合の要望へ対応

- 早期対応を要する学校の選定と、統廃合に向けた調整を進めます。